



なかまのなかまカフェ in ハピネスなかま



令和5年12月15日(金)

今月のなかまのなかまカフェはクリスマス企画！この季節にぴったりの「きよしこの夜」や「イエスタディ」などのピアノ演奏に癒されました♪「なんでも相談してください」心強い相談コーナーや、健康チェックとフットマッサージはいつも人気のコーナーです。



受付係は山下さん♥



福田市長挨拶



ジョークで楽しく！
司会は、お馴染み東さん！



ボランティア演奏はクドメさん♪
ピアノの音色は素敵なプレゼントになりました♪



情報コーナー



ポチ袋製作コーナー

「視覚障がいのことを少しでも理解することで、地域共生社会の実現に繋がりたい！」との思いから、使用済みの点字紙を活用し、この時期にぴったりのポチ袋を作りました。日頃あまり触れる機会のない点字紙。指でなぞりながら、可愛らしいオリジナルポチ袋が完成♪できあがったポチ袋は中間市視覚障害者の会「つばさの会」へ寄附します。



点字とは… 目が不自由な人のためにつくられた表音文字です。紙の表面に凹凸をもたせた6つの点の組み合わせで仮名文字1文字を表し、指先で触って読むなどの工夫がされています。

点字の特徴

- ①触れたところしか認識できない。
- ②すべて横書き。
- ③文字の大きさは変えられない。
- ④仮名文字体系。

点字の歴史

1825年、フランスの視覚障がい者ルイ・ブラユ(当時16歳)が世界で初めて、6つの点で触読する文字「点字」を作った。日本では、明治20年頃、東京盲学校の石川倉次らがブラユの考案した点字を日本語に翻案、明治23年11月1日に転写選定委員会が開かれ、この案を採用することが決定。この功績から石川は「日本の点字の父」と呼ばれ、11月1日が「日本点字制定記念日」となった。



血管年齢測定



ベジチェック



フットマッサージ



相談コーナー



住まい相談窓口



楽しく茶話会



「皆さんの声」アンケート記入！



フードバンク北九州ライフアゲインさんから食糧支援をしていただきました♥



認知症マフ製作コーナー

6月から始まった「なかマフ」製作も今回が仕上げ作業。中につける飾りも、慣れた手つきで次々と編みあげていただきました。地域の皆さんの思いが紡がれたマフは、この後市内のグループホームや、認知症対応の介護老人保健施設に謹呈する予定です。



12月だとは思えない暖かな陽気の中、会場であるハピネスなかまに、地域の皆さんが次々と来場されました。福田市長の主催者挨拶で、令和5年度九州厚生局 地域共生社会推進賞(市町村部門)において、中間市が「優秀賞」を受賞したことを発表すると、会場からは大きな拍手がおきました。地域の皆さんの協力で受賞することができた「優秀賞」であると実感しています。今回も地域の皆さん、専門職、民間企業が協力し「なかまのなかまカフェ」を開催することができました。

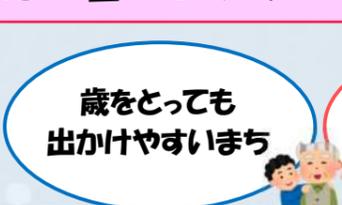
中間市が、どんなまちだったら暮らしやすいですか？



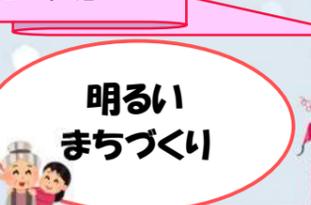
子ども達が安心して暮らせるまち



笑顔で過ごせるまち



歳をとっても出かけやすいまち



明るいまちづくり

